

外国の蓮・日本の蓮

花蓮品種総覧





大賀蓮

桃一重大型無条。ハスといえば大賀蓮といわれるほど、ハスの代名詞ともなっているが、そのため本種でないものが大賀蓮として栽培されていることも多い。花色は桃色、弁先や縁辺に濃い桃色が入る。花弁はやや細長で舟底型で条線は鮮明でない。蕾の時、外弁数枚が舟形にふくらむ。

1951年大賀一郎博士が千葉県検見川で地下4.6mから発掘した実から育成したもので、実(種子)は、二千年以上経っていると推定され、「二千年蓮」ともいわれる。品種名の語尾が「蓮」の場合「ばす、れん」と読むが、大賀蓮は「はす」とする。千葉県天然記念物。

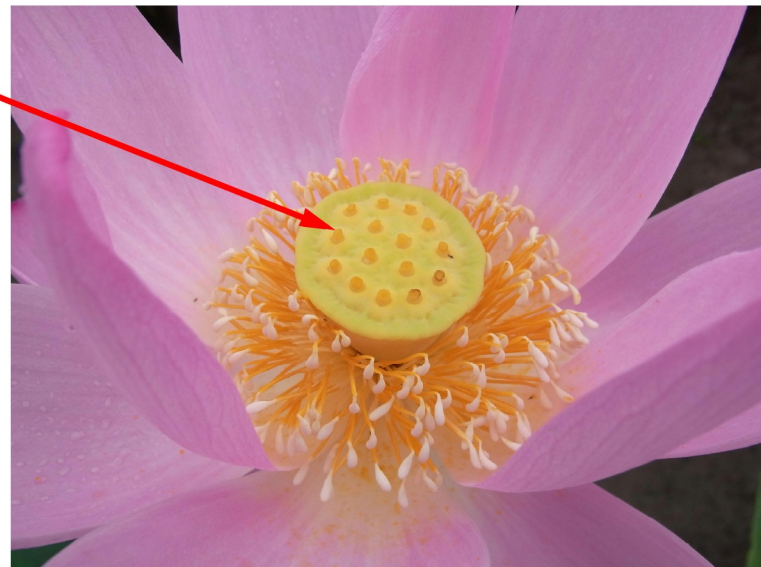


舟形弁



開花1日目

花托面の柱頭を取り巻く部分が盛り上がる。



【大賀蓮の特徴】

花色は濃桃色、花径は24～26cm、花弁数は16枚前後。
花弁の条線(養分や水の通り道)が不鮮明。
開花前になると外弁数枚が舟形弁になる。
花托の柱頭を取り巻く部分が周辺部より盛り上がっている。